

## 平成 30 年度東区自治協議会委員研修会について

## 【開催概要】

- 日 時：平成 30 年 7 月 5 日（木）午後 1 時～2 時 30 分
- 会 場：新潟県立大学 新厚生棟「ぱれっと」2 階
- 内 容：大学生とのワークショップ

## 【開催目的】

県立大学生との意見交換を通じて、東区のまちづくりについて考える。

## 【大学生とのワークショップ】

大テーマ：「県立大学生が考える東区のまちづくり」

小テーマ	班	ファシリテーター	記録（報告書作成）
Aグループ 発災時、学生として「地域 の中で」できることは何 か？	A-1	長谷川 徳昭	学生
	A-2	月岡 道子	後藤 岩奈
	A-3	白井 俊和	野村 綾毅知
Bグループ 高齢者が地域と関わるため に、自分たちができること は何か？	B-1	佐藤 恵子	桑原 昭光
	B-2	田中 一昭	阿部 恭子
	B-3	山田 久美子	安藤 美幸
Cグループ 東区の特産品として馬鈴薯 （じゃがいも）の魅力をP Rする方法はどのようなも のがあるか？	C-1	國兼 忠男	渡辺 芳枝
	C-2	井上 貞男	小野 康樹
	C-3	大江 謙作	佐藤 清
	C-4	菊谷 きぬ子	学生
	C-5	中川 薫	学生
	C-6	木村 早苗	学生

- ファシリテーターの役割：テーマに沿ってワークが効果的に進められるように、時間配分に注意しながら進行する。
- 記録（報告書作成）の役割：ワークショップで出た意見を報告書にまとめる。

## 【その他】

- 集合時間：午後 0 時 40 分
- 集合場所：新潟県立大学 新厚生棟「ぱれっと」2 階
- 交通手段：自家用車または公共交通機関を利用して現地集合  
※大学正門駐車場に 15 台駐車可能（三角コーンを設置）

## Aグループ

【H30「地域社会論」東区自治協議会とのワークショップテーマ】

### 発災時、学生として「地域の中で」できることは何か？

2011年の東日本大震災、2016年の熊本地震と大きな地震が続いています。また、近年日本各地で、大雨や台風に伴う冠水、浸水、土砂崩れも起こっており、いつ新潟も災害にみまわれるかわかりません。

もし、大きな災害が新潟市で起こった場合、学生として「地域の中で」何ができるでしょうか。まず、自分の身を守ることが第一ですが、その後、地域のためにこういったことができるでしょうか。

以下の資料を参考に考えてみましょう。

#### 【参考資料】昨年度のワークショップでの意見

H29「地域社会論」東区自治協議会とのワークショップ 意見まとめ

テーマ		発災時、学生として「地域の中で」できることは何か？
大項目	小項目	意見等
現状・課題	地域との交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との関わりが不足している。</li> <li>・防災訓練がいつ、どこで行われているのか分からない。</li> </ul>
	情報・防災意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難場所・避難方法が分からない。</li> <li>・危険な場所が分からない。</li> <li>・災害の情報を通報する場所・方法が分からない。</li> <li>・避難時に必要なものが分からない。</li> <li>・SNSでの情報発信が少ない⇒SNSでの情報を基本とした場合にSNSを使わない（使えない）人に情報が届かない。</li> <li>・ラジオ放送は、若い人はラジオを持っている人が少ないので、他の手段も必要だと思われる。</li> <li>・地震や津波の実感がなく、防災意識が低い。</li> <li>・情報が学生まで届かない。</li> <li>・住んでいる地域について、よく知らない。</li> </ul>
	施設・設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街灯が少ないところがある。</li> <li>・道路幅が狭いところがあり、救急車・消防車が通りにくい。</li> <li>・住宅密集地が多く、火災が燃え広がる恐れがある。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学での防災訓練が行われていない。</li> <li>・マンションやアパートが密集していると、人が多いため避難するために時間がかかる。</li> <li>・高齢者が多く、逃げるのが困難だと思われる。</li> </ul>

改善策	地域との交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 朝のラジオ体操などイベントに参加する。</li> <li>• 地域の人と避難場所の確認をして、訓練する機会を増やす。</li> <li>• 避難訓練を学校関係者だけではなく、地域と合同で行う。</li> <li>• 保育園から大学まで各学校が合同で訓練を行う。授業等の時間であれば、日程の調整もしやすい。</li> <li>• 学生が地域のイベントの企画をして、積極的に地域との交流を深める。</li> <li>• アパート・町内会単位の避難訓練を実施すると近所の住民と交流することができる。</li> </ul>
	情報・知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 公共施設を利用する機会を増やすと、避難場所への行き方を覚えられ、住民との交流にもなる。</li> <li>• 標識を意識して覚えるようにする。</li> <li>• 避難場所を記載した看板やポスターを増やす。</li> <li>• 災害に関する情報をまとめたフリーペーパーを作る。</li> <li>• 定期的に地域住民に避難経路などを回覧板で伝える。</li> <li>• まちなかに避難場所を知ってもらう掲示をする。</li> <li>• 避難場所について、ローカル番組を使って発信する。</li> <li>• 地域ごとにSNSのアカウントや web サイトを作り、日頃から避難場所などをメッセージとして発信しておく。</li> <li>• 市外出身者向けの情報発信のため、転入時に避難所・経路地図・訓練日程などの案内を配布する。</li> <li>• きちんと避難場所に足を運んで確認する。</li> <li>• 自治会・町内会に情報提供をお願いする。</li> <li>• 学校に区だよりを置いてもらう。</li> <li>• 学校に防災関係の掲示板を作ってもらう。</li> </ul>
	施設・設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 道路を整備し、緊急車両がスムーズに通れるようにする。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 避難訓練への学生の参加が増えるように、学校での取り組みを強化する。</li> <li>• 学校でのカリキュラムの中に、防災に関する時間を設ける。</li> </ul>
自分たち（学生）が出来ることが出来ること	自分を守るために出来ること	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 配られた情報にしっかりと目を通す。</li> <li>• 防災訓練に参加する。</li> <li>• 非常食を備蓄する。</li> <li>• 避難所や避難経路などの確認をしておく。</li> </ul>
	地域のために出来ること	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 避難時に弱者を手助けするため、近所の住民を把握する。</li> <li>• 学校周辺の高齢者を把握しておく。</li> <li>• 地域の防災訓練に参加し、顔見知りの関係を築く</li> <li>• 留学生と接する機会が多いため、非常時に言葉が通じず不安にならないように普段からコミュニケーションを図る。</li> </ul>

## 高齢者が地域と関わるために、自分たちができることは何か？

新潟市の高齢化率は平成30年5月末時点で28.5%であり、過去に経験したことの無い人口減少、少子・超高齢社会を迎えています。このことは、東区においても例外ではありません。

今後さらに高齢化率が上昇していくことが予想されるなか、地域全体で高齢者を支えていくことが求められています。

高齢者が地域と関わり安心して暮らしていくために、学生の皆さんができることは何か、以下の資料を参考に考えてみましょう。

### 【参考資料】昨年度のワークショップでの意見

#### H29「地域社会論」東区自治協議会とのワークショップ 意見まとめ

テーマ		独居老人が社会と関わるために、市民にできることは何か？
大項目	小項目	意見等
現状・課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>一人暮らしの高齢者の割合が増えてきている。</li> <li>東区の高齢者のみの世帯が26.8%と市の平均よりも高い。</li> <li>家に閉じこもりがちな高齢者が増えている。</li> <li>おしゃべりの場として公園が活用されていたが、集まれる人が減り、公園で集まらなくなった。</li> <li>一人での外出は危険があり、車を運転するのも危険がある。</li> <li>バス停が遠いなど、交通インフラが整っていないため、外出しにくい状況となっている。</li> <li>近くにスーパーマーケットが無く、自転車に乗れない高齢者や歩くのが困難な高齢者は買い物難民となる。</li> <li>若い人のいない世帯が増えつつあり、高齢者が親や配偶者を介護する老老介護も増えつつある。</li> <li>高齢者が参加できるイベントが少ない。また、イベントを周知する広報も弱いのではないか。</li> <li>認知症になる人が増加している。</li> <li>自分には関係が無く、他人事と捉えてしまっていた。</li> <li>災害時には、近所の人や親族が助けなくてはならない。</li> </ul>
改善策	高齢者が出来ること	<ul style="list-style-type: none"> <li>近くでも外出・散歩をする。</li> <li>地域の住民と積極的に会話や挨拶をする。</li> <li>地域のイベントに参加する。</li> <li>買い物など必要最低限の外出以上に、社会と関わる機会を増やす努力をする。</li> <li>SNSを活用して交流する。</li> </ul>

改善策	近隣住民 が出来る こと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に声かけや話しかけをする。</li> <li>・家にいる人には回覧板を手渡しで渡すなど、独居老人と関わる機会を作る。</li> <li>・みんなが仲間であることをアピールする。</li> <li>・ポストを使って文通してみる。</li> </ul>
	地域が出来ること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生の独居老人宅訪問イベントを企画する。</li> <li>・小学生のみまもり隊の活動に勧誘し、参加してもらう。継続して活動の勧誘をすることで高齢者のみまもりにもなる。</li> <li>・ごみ出しをするなどして、独居老人の現況を把握する。</li> <li>・人が集まる場所に出て来てもらうには、組織を作る必要がある。</li> <li>・高齢者世帯の見回りをする。</li> <li>・高齢者が受け身的に社会と関わる機会を作り、仲良くなってもらう。</li> <li>・町おこしや伝統事業などで、ほどよい負担で、やりがい得られるような役割を与える。</li> <li>・多世代が参加できる町内対抗運動大会の開催</li> </ul>
	行政が出来ること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人や地域の人が気軽に出入りできるコミュニティハウス等の施設を造る。</li> <li>・若者を交えた料理教室や食事会などのイベントを催し、地域社会と関われる機会を増やす。</li> <li>・小学生とのふれあいの場を作る。</li> <li>・保育園や小学校に高齢者が訪問し、昔の遊びを教える。</li> <li>・いつでも話を聞いてもらえる専用電話を設置する。</li> <li>・専用バスを使った送迎をする。</li> <li>・区バスを周辺部にも、くまなく走らせる。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郵便受けを定期的にチェックし、溜まっていたら声をかける。</li> <li>・家族は親を気にかけるようにする。</li> <li>・高齢者宅へボランティアが訪問する。</li> <li>・高齢者が活躍できるよう得意分野をリサーチする。</li> <li>・高齢者に雇用を創出する。</li> <li>・将棋ブームなので、将棋での交流をする。</li> <li>・孤独死や病気が心配なので、県大生が曜日を決めて訪問する。</li> <li>・色々なことをサポートしてくれる「地域コンシェルジュ」を作る。</li> <li>・スーパーが近くにない地域に移動販売車を走らせ、大学生がそのサポートをする。</li> <li>・スーパーが近くにない地域に地域内市場を設置する。</li> </ul>

## Cグループ

【H30「地域社会論」東区自治協議会とのワークショップテーマ】

### 東区の特産品として馬鈴薯（じゃがいも）の 魅力をPRする方法はどのようなものがあるか？

#### 東区産馬鈴薯の現状と課題

東区の特産品として大形地区を中心に栽培されている馬鈴薯は、市場での人気もあり高い評価を受けています。

しかし、関東地方への出荷割合が高く、地場に出回らないということもあり、東区民には東区の特産品であるという意識は低い状況です。

#### ワークショップの検討内容

現在、東区自治協議会は、昨年度の県立大学生とのワークショップで出たアイデアを発端として、東区の農産物の魅力を発信する事業を展開しています。

今後、市場での価値をさらに高め、販売の拡大を図るために、どのようなPR方法が考えられるでしょうか。

また、東区の区民が誇りに感じ、地産地消へつなげていくために、どのようなPRを実施すれば注目を集められるでしょうか。

#### 東区の農産物魅力発信事業の内容

○県立大学生を対象とした東区産馬鈴薯を使った料理アイデアコンテスト（実施済み）

○東区産馬鈴薯のネーミングコンテスト（7月下旬以降に実施予定）

○大学生対象のじゃがいも栽培体験（随時募集中）

○東区区民ふれあい祭でのPR（7/16開催）

- ・料理アイデアコンテストの優秀作品の発表
- ・馬鈴薯の小芋掘み取り
- ・優秀作品を活用したPRチラシの配布
- ・馬鈴薯直売（予定）

○料理アイデアコンテスト優秀作品を活用した農産物販売店舗でのPR

○その他各種イベントへの出展によるPRを検討中